

「製品認証取得の会員紹介」⑱

タイセイ電機株式会社 福岡工場



タイセイ電機株式会社福岡工場全景

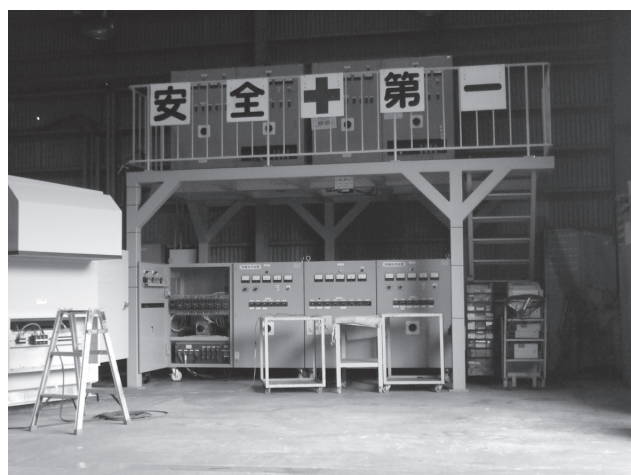
今回は「タイセイ電機株式会社」(小形鬼代次社長)の福岡工場取材した。同社は特に定周波定電圧非常用発電装置「タイセイコンフレッカー (CVCF)」シリーズの開発メーカーとしてあまねく知れ渡っている。金融機関の各種施設、防衛省の自衛隊施設向けの仕様に特化して、日本全国で豊富な納入実績を誇っている。本社事務所および福岡工場は、福岡空港から自動車です約30分の福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3381-4にあり、福岡工場では非常用発電装置の設計から、装置の製造、装置の負荷試験に至るまで一貫して自社で実施している。タイセイ電機における自家発事業の変遷をたどり、今後の取り組みについて紹介する。

創業の経緯

タイセイ電機株式会社は、福岡県内で飲食事業などを営んでいた荒尾ご夫妻により、1959 (昭和34) 年に福岡・竹下で「日本放電株式会社」として設立された。今年8月26



製作工場内



負荷装置

日に創業50周年を迎える。現在、同社の資本金は6,000万円、従業員数は30名。創業当時は、主な事業として、漁船の船主からの注文に応じ、イカ釣り漁船に搭載される集魚灯などの電気製品を開発・製造し、販売していた。1962 (昭和37) 年2月、社名を「大成電機株式会社」に変更した。

業務拡大に伴い、1985 (昭和60) 年11月、福岡市の郊外宇美町に造成された早見工業団地に新社屋が完成したのに伴い、同社は本社事務所および福岡工場を移転した。併せて、同年12月、社名を現在の「タイセイ電機株式会社」に変更し、今日まで至っている。

金融・防衛施設用に特徴ある製品開発

タイセイ電機は、1964 (昭和39) 年4月、予備電源装置を開発し、販売を開始した。1970 (昭和45) 年6月、バックアップ用電源として、定周波定電圧発電装置 (CVCF)「タイセイコンフレッカー」シリーズを独自に開発し、同年12月から販売を開始した。1971 (昭和46) 年4



情報表示板用発電装置

月に山口銀行に1号機を販売したのを皮切りに、次いで、十八銀行、福岡相互銀行に納入した。

金融機関からの受注が相次いだ背景として、1971（昭和46）年から開始された国内の金融機関における第1次オンラインシステム化の実施による影響があげられる。各金融機関では、オンラインシステムへの移行に伴い、予備電源として「タイセイコンプレッサー」を採用していった。また、オンラインシステムの端末機器を利用した金融取引の量的拡大に伴い、金融機関での日常の取引業務を支える情報システムやデータの通信システムも急速に普及拡大していった。そのため各金融機関では、予期しない停電などにより、コンピューターシステムから膨大な取引データや大切な顧客データが消失するのを未然に防ぐため、バックアップ用電源として、相次いで自家発電装置を設置していった。

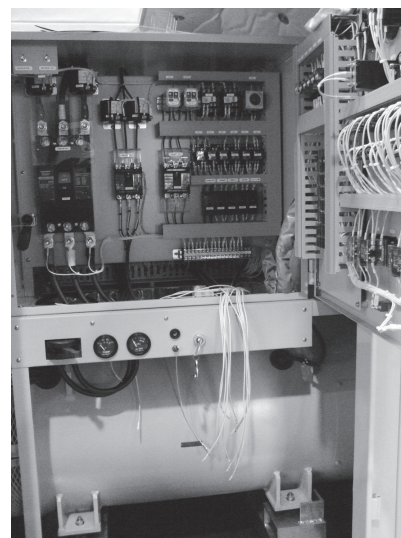
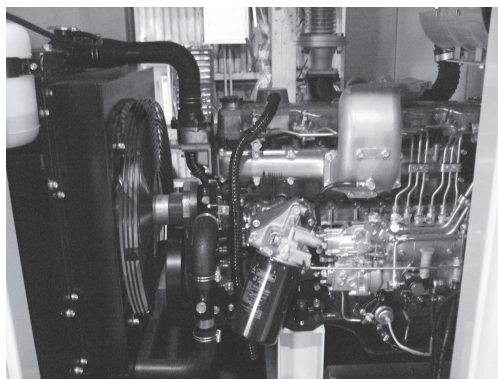
発電装置の需要増加に伴う市場拡大を踏まえ、タイセイ電機では、従来の非常用発電装置「タイセイコンプレッサー」シリーズに加え、新製品として、1973（昭和48）年7月に「無停電電源装置」(M-G方式)、同年9月に「コンプレッサー電源車」を発売し、製品ラインアップの充実化により受注を伸ばしていった。

一方、同社は、独自の厳しい要求精度をクリアすることが求められる金融機関への納入実績をもとに、より高い信頼性が厳しく求められる防衛庁（現防衛省）にも積極的な営業を展開していった。1979（昭和54）年2月、防衛庁調達実施本部より発動発電機製造部門で「タイセイコンプレッサー」が等級Aの資格取得を果たし、1980（昭和55）年10月、発動発電機指名競争入札の指名を受け陸上自衛隊にコンプレッサー45kWを納入した。なお、2005（平成17）年3月時点で陸上自衛隊向けコンプレッサー累計納入台数は585台に達した。



制作中のコンプレッサー

独自のガバナ制御を搭載した原動機及び制御盤



1979（昭和54）年3月に建設省（現国土交通省）九州地方建設局へタイセイコンプレッサー65kVAなどを、1980（昭和55）年3月に福岡県より無線中継所28か所などへ防災無線用予備発電装置を納入した。同年11月に九州地区農協オンラインセンターより端末機用予備電源装置の製造事業者として単独指名を獲得、81（昭和56）年1月に九州地区農協に納入を開始した。

販売注力していく製品シリーズ

同社の主な製品として、定周波定電圧非常用発動発電装置「タイセイコンプレッサー」シリーズとして、「CF550」、「CFK」、「CF07」の3タイプがある。「CF550」のタイプには、単相交流と三相の電力を1台で供給可能な「タンデム型」、単相交流と小容量の三相の電力を1台で供給可能な「ダブルスター型」、コンプレッサーと無停電電源装置（UPS）を一体型とした10時間の長時間運転可能な「エンドレス型」がある。「タイセイコンプレッサーの納入先は金融機関向けが約6割、残りは防衛省向けが占めている」（タイセイ電機）という。全国津々浦々にある都市銀行、地方銀行、信用金庫などあらゆる金融機関向けに、タイセイ電機ブランドは浸透している。

一方、国土交通省の河川道路事務所で採用されている情報表示板（CCTV）用非常用発動発電装置「コンパクトジェネレーター」シリーズとして、「GTDL（1～10kVA）」がある。環境に配慮したソーラーパネルと一体型とした新商品も販売しており、既に山間地の通信施設中継所などに納入している。

タイセイ電機は今後、防衛省の自衛隊施設、アメリカ軍の関係施設、国土交通省の河川道路管理事務所向けに監視カメラ用電源として、10kW以下の発電装置を積極的に売り込んでいく。さらに最近では通信販売の取引高の増加に伴い、24時間稼働するコールセンターから、情報システムのバックアップ用電源として、非常用発電装置、単相・三相出力可能なタンデム方式の無停電電源装置などの問い合わせが増えているという。組織の営業力強化を図るとともに顧客のニーズに合った製品製作をモットーに新規市場を開発していくとしている。